

れぞれ一括上程をして審議を願うこといたしました。さらに、日程第五から日程第七までの三議案と、日程第二十三から日程第二十九までの七議案について、慎重審議の上、即決で願うことと議運としては決定をしております。

次に、会期についてありますが、六月後半から国政選挙が予定されておりますので、それらの日程を配慮するとともに、一般質問の通告時間、議案の審議時間等勘案の結果、本日と明日の二日間本会議をお願いし、その後における委員会の審査時間等検討し、最終日を十一日とする十日間とすることいたしました。

次に、全員協議会であります。理事者から申し入れがありますので、議事の進捗状況を考慮して開催することといたしました。

以上でございますが、議員各位の特別の御協力を賜り、今定例会の会議が円滑に運営されますようお願い申し上げます。報告いたします。

○議長(森田治男君) 以上で委員長の報告は終わりました。  
お諮りいたします。

会期につきましては、ただいま委員長から報告されたとおり、六月二日から六月十一日までの十日間と決定いたしましたと思っておりますが、御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(森田治男君) 御異議なしと認めます。よって、会期は十日間と決定いたしました。

○議長(森田治男君) 日程第三一般質問を行います。

一般質問については、既に通告をされておりますので、通告の順に従い発言を許します。まず、十一番 原敏子君。

(十一番 原敏子君 登壇)

○十一番(原敏子君) 一般質問をさせていただきます。

市の行政について。市民生活をより快適に過ごしたい、自分の住まうが他の自治体よりも暮らしやすく便利にと、また環境をよくしたいと望むのは、五万市民の願ではないでしょうか。市政が市民の身近なものとなり、市民の願いがかなえられることが望ましいと思います。五万市民の願いはさまざまなものがあります。これらの願いの中には、これまでも行政として施策を進めているもの

もあるでしょうし、市民の願いを受け入れるよう努力されてきているものもあると思います。市民としても、住みよいまちづくり、環境づくりを進めているところですが、行政としても他市町に負けない施策を進めていただきたいと思います。今回はその中でも通告してあります四点について質問をいたします。市長のお考えを聞かせていただきたいと思います。

一点目に交通安全対策について。

市内には、保育所十カ所、小中学校合わせて十校、また地域会館などの公共施設があります。建設したときは付近の状況が随分と変化しています。建設当時は安全対策がなされていたと思いますが、現在では地域の状況も変わり、新たな安全対策が必要だと思います。例えば弥生保育園の周辺ですが、通園に自動車、自転車といった乗り物の利用者が多く、ふだんは余り使用しないのではないかとと思うような路地を、通園路として利用しています。表の道路に出るのに見通しが悪く、カーブミラーをつけてほしいと利用者の声があります。また武蔵野台地域では、つい最近まで角が畑だったため見通しのよかった交差点が、マンション建設のため小中学生の通学路となっているにもか

かわらず、見通しが悪くなり、せつかくの横断歩道も役に立たなくなっているという状況にあります。このように十カ所例を挙げましたが、市内にはまだ多くのこのような場所があると思います。幼児や小中学生の多く利用する公共施設の付近道路を早急に点検し、是正すべき所は是正すべきと考えますが、市長の見解をお尋ねいたします。

二点目にまちの美化について。

福生市を我がまちと思い、住みよいまちにきれいなまちにと思い、多くの市民が暮らしています。ところが、隣の羽村町から福生市に入ると、まち全体が何となく違うのです。どこがどのように違うのかと考えますが、道路の清掃や植木などの、いろいろと理由があると思いますが、行政としてのまちをきれいにしようという施策の取り組みの違いではないかと思えます。まちの美化というのは、市民一人一人まちの美化を考えることにはなめがあるのではないですか。行政としてまちの美化を市民にアピールし、市民への啓蒙活動をすることが大事ではないかと考えます。例えば、家族の日があるようにまちの美化デーを設定したり、人通りの多い場所にくずかごを置いたり、市民に対して自分のまちであるという

意識を強く持つてもらうために、行政として何らかの施策を行うべきだと考えますが、市長の見解をお尋ねいたします。

三点目に、市役所業務の出先事務についてお尋ねいたします。

横に細長い当市の真ん中に市役所があります。そのために、加美平や熊川方面からの交通の便が悪い当市において、市役所が遠くて不便であるという市民の声があります。市役所の不便さを解消するために、今ある地域会館等を利用した市役所業務の出先事務を行ったりいかがでしょうか。出先事務では取り扱う業務は限られるでしょうが、これこそ、市役所が市民の中に入っていくことになり、市民が市役所を身近に感じるものではないでしょうか。税金の督促等には市民の自定に足を運ぶわけですから、市民にも市役所業務が手近なところで用が足せるようにすることが、市民サービスの一つではないかと考えます。市役所から遠い地域に出先業務取り扱いができるよう配慮すべきと考えますが、市長の見解をお尋ねいたします。

四点目に、市民の福祉厚生事業について質問いたします。すべての市民が有効に利用できる 福生市福祉厚生事業を行う考えがある

かお聞きいたします。以前、私は一般質問で市民のための海の家、山の家の設置について質問いたしました。そのとき、市長は、西多摩広域圏で考えていきたいという答弁をされました。その後、広域圏でどのような経過になっているのか、まず一点質問いたします。

ほかの自治体を例に出しても仕方がないことですが、同じ西多摩広域圏の羽村町は、今度ハケ岳のふもと清里に、羽村町独自で自然休暇村を設置すると聞いています。福生市と羽村町とは隣接しています。道一本挟んだ羽村町で市民のためのレジャー施設をつくるのに、当市では前石川市長が約束されました市民のための福祉厚生事業がいまだ実現しないのはなぜでしょうか。市民であればだれでも気軽に利用でき、しかも安いとなれば市民は大喜びだと思います。家族旅行もままならない今の生活状態の中で、市民のための福祉厚生事業を行ってほしいと考えますが、市長の見解をお尋ねいたします。

次に、二点目の米軍横田基地について質問させていただきます。

横田基地の現状について。

横田基地はアメリカの核軍拡の中ですますます重要な役割を果たしています。

横田基地には、B52戦略爆撃機に短波無線で最終的な核攻撃命令を伝えるジャイアント・トークステーションが置かれています。ことしの四月には、スコップシグナル・スリーと呼ばれる改良工事が行われています。この改良工事の目的が核爆発の影響で短波無線通信が途絶えるのを防ぐものであることが、アメリカの議会資料によって明らかとなりました。核攻撃の指揮通信施設としてのジャイアント・トークステーションが、核戦争中も機能し続ける工事をしているのです。スコップシグナル・スリー計画が目指しているのは、アダプティブHFという適応できる短波システムの導入です。この新システムの導入は、地上の送受信施設、B52など航空機に搭載される送受信装置など短波通信ネットワークの、全面的な完装の形で取り組まれています。核爆発の環境に適応できるこの短波システムの導入によって、ジャイアント・トークは核戦争時に本格的に働ける施設として生まれかわることになるのです。昨年、二月二十一日の共産党の松本善明議員への政府答弁でも明らかのように、横田のGCCSステーションは、大統領とその核戦争指揮機——国家緊急空中指揮所といいますが、この指揮システムであるミスティックスター、太平洋統合軍指令官とその空中指揮所につながるコマンド

エスフォートの任務をあわせて持っています。

現在、横田基地ではスコップシグナル・スリー計画の実施に伴い、ジャイアント・トークを含めたそれぞれのステーションの担当要員が、すべて第五空軍指令部のある七百十四号ビルに集中されています。横田基地はこれらの一連の戦略空軍と空軍の短波の指揮システムの改良計画によって、核戦争指令部としての機能を一層強めることになりました。横田基地は、これまでに判明した、一、地下の核シェルターの指令部 二、空中からの核戦争指揮体制の用意に加え、三、これらをつなぐ通信システムも核爆発耐久型となり、三拍子そろった核戦争指令部としての機能を持っています。米軍による日本デジタル構成計画、すなわち日本に張りめぐらされた米軍の通信システムのデジタル化計画では、横田基地が極東の指揮通信の中核として、これまで以上に重要な役割を担っていく様子が明らかになっています。

以上述べてきましたように、当市の三分の一を占める米軍横田基地が極東における米軍通信の玄関口とされ、極東の中核的な指揮通信拠点としての役割を持つ大変危険な基地であることが、ますます明らかになっています。

五万市民の命と暮らしを守る市長として、また五万市民の代表として、米軍と日本政府に対して、このような危険な横田基地撤去を強く申し入れるべきだと私は考えるものです。市長の明快な答弁をお願いたします。

以上、登壇による私の一般質問といたします。

（市長 田村匡雄君 登壇）

○市長（田村匡雄君） 原議員さんの一般質問にお答えします。

第一点の市の行政について。

交通安全対策についてでございます。交通安全対策については私も力を入れて取り組んでおりまして、御承知のとおり昭和五十八年に交通安全都市の宣言を行わせていただきました。確かに道路は日常生活に欠かすことのできないものであります。福生の警察署と情報交換及び道路パトロール等を通じて、道路安全施設の整備・充実を図り、市民の方々が安心してできるよう努力をしております。交通量との関連及び道路構造面での問題もあり、福生警察署とも十分に協議をし交通事故を少しでもなくしていきたいと考えております。

次に、第三点のまちの美化についてでございます。

まちの美化につきましては、現担当市におきましては、家庭から出る燃えるごみにつきましては毎日収集を行い、さらに燃えないごみについても週一回の収集を行い生活環境の維持に努めております。また、市の施設につきましても環境整備に努めておるところでございます。さらに町会等を中心に、公園等の公共施設につきましても清掃を行っていただいておりますが、市としましては、今後も引き続き環境整備に努めてまいる所存でございます。また、広報、清掃だより等を通じてまちの美化につきましても啓蒙活動を実施しております。同時に、市民の皆さんが美しく住みよいまちづくりに御協力をいただければと念願をいたしておるわけでございます。

次に、第三点の市役所業務の出先の事務についてでございます。

現状、市民課の窓口で対応しております戸籍住民登録の関係の届け書の受理及び諸証明の交付につきましては、市民係の職員十二名で処理を行っております。福生市の場合には移動が多く窓口事務が大変混雑する日もございます。特に最近、民間におきましては週休二日制のところも多

くなりました関係で、土曜日に窓口を利用される方が増大いたしておりますのが現状でございす。ところで、福生市は御案内のとおり狭隘な面積でもございすので、御質問の出先事務処理につきましては、現在の方法で事務処理を行ってまいりたいと存じますので、よろしく御理解をお願いを申し上げます。

次に第四点、市民の福祉厚生事業についてお答えいたします。市民の福利厚生施設として海の家、山の家等の保養所の設置につきましては、効率的な利用前に御質問をいただいておりますが、これらの施設につきましては、検討事項として出を図る上で、広域圏で実施できる方法がとればとの考えのもとに討論事項として出しましたが、複数団体による施設の設置等の関係については、現段階では西多摩広域圏として検討することが難しい状況であり、検討事項としては取り上げられませんでした。

したがって、今後市としては市民の健康管理の一環として施設の短期または長期間の借り上げ等、何らかの方法でこのような施設を設ける必要があるかどうかと思いますが、現段階では市民の健康管理のための健康診査等の事業内容の充実を図っていかねばならない状況でございすので、もうしばらく検

討をさせていただきたいと思ひます。また、国等の公共機関が指定しております保養所等の利用についても、利用者に対する費用の補助等が考えられるわけでございす。財政状況の厳しい中にある当市といたしましては、前に述べましたとおり、当面は健康診査等の身近な問題に重点を置き事業を進めてまいりたいと考えておりますので、御理解をいただきたいと思います。

次に、横田基地の状況について御答弁を申し上げます。

基地に対する私の考えにつきましては、いつも申し上げておりますように、基地の存在は市民生活へのさまざまな影響があることも事実でございまして、基本的に福生市に基地がないことが望ましいことであると考えております。しかしながら、基地は安保条約に基づき国の施策として存在するものであり、容認せざるを得ないと考えております。なお同時に、基地が存在している現実を前提といたしまして、一方で基地によってもたらされる市民生活への直接、間接の障害を、最大限に除去するための諸施策を積極的に進めるため、今後とも関係機関に対して強力に働きかけてまいることが私の責務であると考えておりますので、よろしくお願いいたします。

答弁にかえさせていただきます。

○十一番(原 敏子君)

それでは自席から再質問させていただきます。

まず、交通安全対策についてなんですけれども、今市長の答弁で、少しでも交通事故をなくしていきたいということで交通安全都市宣言が五十八年にされて、それなりの努力はされているということとは私も十分承知しておりますが、今私が登壇して質問いたしました十二の保育所、それから小中学校、市内にある公共施設、地域会館とか図書館とか市民会館とか、そういうところの再点検をしていただきました。こういうふうな質問をしたというふうに思うんですけども、それはいかがなものでしょうか。そのところを答弁がちょっとずれてるのではないかと思いますので、そういう再点検をされるかどうかということをお尋ねしたいと思います。

それと二点目のまちの美化についてなんですけれども、市長も答弁で市民の皆さんの協力を願っていると。それで清掃だよりとか広報などで働きかけていきたいということ、やはり市民一人一人のそういう気持ちがないとやはりまちは美しくならないということ、これは私と意見が一致しているのではないかとこのように思うんですけれども、この市民の皆さんの協力を願っている、これをどういうふうに行政として

積極的に施策として取り上げていくかということが、これが大事ではないかというふうに思うわけです。

それで市民の皆さんの協力をぜひ願っているんですけれども、言ってみれば行政が市民の中心となって、このまちの美化を図るようにしなければならぬのではないかとこのように考えて質問したわけなので、その答弁が、清掃だよりや広報などで知らせていくんだということだけではなくて、今までも清掃だよりや広報などでもされているわけですが、もっとほかに具体策がないものか、これを聞かせていただきたいと思えます。

それと三点目の市役所業務の出先事務についてなんですけれども、確かに横田基地に三分の一の面積を取られていますので、本当に狭い福生市なんですけれども、登壇して言いましたように、横に細長いまちで真ん中に市役所があるわけです。私も地域会館がなければこんなことは言わないですけれども、例えば加美平でいえばかえで会館という地域会館があります。そういうふうなところでどれだけの業務ができるか、それこそ市民課の職員の皆さんと相談しなければわかりませんけれども、こういうふうな地域会館を利用して私は出先業務を

行うことが市民サービスではないかというふうに質問したわけです。それで市長の答弁では、今市役所の市民課の窓口は十三名の職員で事務を行っているということ、これで外へ出るのは十三名では少ないんだというふうにも聞きました。けれども、この職員の数が足りないからできないのか、それとも市長の姿勢としてやはり狭いまちなので皆さん市役所に来ていただくんだということなのか、そのところをはっきり聞かせていただきたいと思います。

それと、今言いましたように、そういう地域会館を利用してこういう市役所の業務を行うということは、ほかの自治体なんかでは――広さの、面積の関係が違いますが、すすけれども、どのようにされているのか、さうとお調べになつておられますので、その点なども聞かせていただきたがり、なぜこれができないのかという理由をはっきりと聞かせていただきたいと思います。

四点目の福祉厚生事業についてなんですけれども、それでは私の前の質問のときに広域圏で何と検討してみたいと言われましたが、広域圏では無理だといふことがはっきりしたので、もう広域圏ではできないというふうにこれは承知いたしました。

それで、この市民の福祉厚生事業についてというのは、今の市長の答弁では、市民の健康管理のためというふうに、そのように重点が置かれたような答弁だったといふふうに思ふんですけれども、私が質問しているのは、確かに広い考えでいえば市民の健康管理のためということもあると思いますが、いろんな意味で、例えば小中学生の移動教室だとか青少年の健全育成のためとか、また一般市民の安くて便利で使えるそういうような市の保養所ですね、そういうふうな立場からこれも考えられないものかというふうな形で質問しているつもりなんです。確かに健康管理のためだけのことで答弁されますと、今の健康センター、ヘルス事業をもっとも重点に置かなければならぬだろうといふふうに私は思いますけれども、これだけではない市民全体の、大きい意味でいえば健康管理でしようけれども、言ってみればレジャー施設みたいなもの、そういうものなどがどうなのかなというふうに考えているわけです。

登壇して羽村を例に出しましてなぜ羽村が例に出るかという点、道路一本隣かもう羽村なわけです。それでお向かいの羽村ではこういうものがあるのかというふうな意見がよく出ますので、そこを例に出させていただいているんですけれども、羽村

町では六十一年度ハケ岳の清里に自然休暇村をつくるということで、ことし六十一年度は土地取得を行うそうです。来年度に設計を行って六十三年度にそれを建設するというふうに、三カ年計画で自然休暇村、これは青少年の合宿だとか小中学生の移動教室だとかそういうようなものを夏休みは重点に置き、普通の夏休み以外のときは町民の方々が安く使えるような、そういうものをつくりたいというふうに計画があるというふうに聞いてます。これだけじゃなくて、羽村町はもう御承知のように落合荘というのも奥多摩の先の方にあります。

また、海の家というのが夏休みだけこれまでも三カ所、伊豆だとか茨城だとか、そういう海辺に夏休みだけ民宿を三カ所借り切って町民の皆さんが海に行きやすいようにというふうに、何かそういう施策もとてるということですし、六十一年度は海の家を、海の家というか民宿を一年間温泉つきのところを借り上げると、一年間借り上げる。これが温泉つきで一泊三千円で行うんだというふうな、こういうふうなことも行われています。

ですから、私は今市長が言われました借り上げも必要ではないかというふうに考えているということなんです。そういうところから始めても私はいいのではないかなというふう

に考えるんですけども、答弁ではもうしばらく検討をしたいということですが、健康管理だけではなくて市民全体のレジマ、そういうところからの立場では、どのような答弁をいただけるかお聞かせいただきたいと思ひます。

米軍横田基地につきましては、今市長が答弁されました。いつも基本的には福生にない方がいいと、政府のそういう施策だから仕方がないと。市長としては、直接、間接に関係機関に公害が起きないようなそういうふうな要求をしていきたいというふうな答弁をいただきましたけれども、ただの基地ではないということ、今登壇して発言しましたように、はつきりわかりになったと思ひます。これまであったジャイアント・トークステーションに、これが核戦争が起きてもまだなおかつ進められるようなこういうふうなものが、スコップシグナル・スリーというふうなものまでこういうふうな改良工事も行われている。言ってみれば日が追うごとに、横田基地がますます危険な基地になっていくんだということ。ですから、ただ安保条約があるから、これは国の施策だから仕方がないただけでは済まないんだというふうに思ひます。五万市民の命と暮らしたけりではなくて、言ってみればここでもしも何らかのことが起きれば、福生市民だけではなくて東京都民は

もちろん、この近辺みんなこの横田基地のために大きな被害を受けることになるわけです。元防衛庁の長官の自民党の現衆議院議員の赤城宗徳さんです。アメリカとソ連で戦争が起きるとなったり日本が戦場の中心になります。戦争が起きれば、初めは核兵器を使わなくてもだんだん核兵器を使うことになるかもしれない。そうなれば、どうしても日本が両方の攻撃基地になる。世界で核兵器を廃絶しようという事態が来る前に、日本の周辺で核兵器戦争になる危険があるんだということ、ことしの二月号の「世界」のインタビューで、こうい

うふうにインタビューに答えているわけです。

ですから、確かに安保条約があって横田基地がある、それはいたし方がないというふうに考えますけれども、この横田基地に核兵器が存在するだとか核戦争のための通信施設があるということは、とても許せないというふうに思っています。そういう点で、市長にぜひこれは強固に核通信施設を撤去してほしい、それができないならば横田基地を撤去してほしいという姿勢を強く持っていただきたいというのが私の質問の趣旨なんですけれども、このように元防衛庁長官、自民党の現衆議院議員の赤城さんが言っていることも含めて、市長の最後のお考

えを聞かせていただきたいと思います。

○市長（田村匡雄君） 自席からお許しをいただきまして、原議員さんの御質問にお答えします。

基地問題だけについて私はお答えいたしますのでよろしくお願いしたいと思いますが、基地の関係につきましては、前にもちよつとお話しを申し上げたんでございすけれども、原議員さんと私どもの意見の食い違いが少しございまして、どうも一致しないということで私も残念に考えておるということでございまして、申しわけないと思っております。そういうことで、答弁がどうしてもそのようになっていくわけでございます。ジャイアント・トークとかいろんな関係につきましては、現在私どもちよつと調べてみたんですけれども、ジャイアント・トークステーションでございすか、これは今横田からは撤去してあるんではないかというふうに考えておるわけでございます。ひとつそういう意味で御理解をお願いしたいと思います。

○建設部長（木村進君） 自席からお許しをいただきまして、第一点の交通安全施設の整備につきまして御答弁申し上げます。

御案内のように、市の道路につきましては非常に狭い道路が多いわけでござい